1. ^{14}C-Thymidine および ^{14}C-Glycine 投与による妊娠ラット2，3の臓器内核酸へのIncorporationについて
—とくにHCG投与による変動—

柳沢和孝　久江清一
（金沢大学　婦人科）

HCG投与により，target organである卵巣の変化が他の関連organにいかに影響するか，とくに胎盤における影響をみる目的で，核酸また一部タンパク体謝の面から観察した．非妊および妊娠各期ウィスター系ラットにHCGを5日間投与したもの，非投与のものに^{14}C-Thymidine，^{14}C-Glycineを各2.5μCi/100g体重投与し3時間後に臓器摘出を行ない，Schneider法により抽出し，各臓器radioactivityをscintillation counterで測定した．Thymidineではとくにincorporationの高い臓器はみられずHCGの影響も少であった．

Glycineの核酸分劃は，妊娠群で，胸腺は減少卵巣は増加を示し，HCGにより増加した．胎盤では妊娠中期にpeakがみられ中期に活性予備能の存在を示し，HCGにより中期後期とも減少した．タンパク分劃では，卵巣は妊娠で増加，HCG投与でも増加を示し，胎盤は妊娠中期がpeakで，HCGにより中後期とも減少を示した．

以上の結果はHCGが卵巣に働きEstrogenを分泌させ，それが胎仔胎盤系に影響するか，HCGが直接胎盤に影響したとも考えられる．

胎盤にHCGを投与し核酸分劃およびタンパク分劃に減少のみられたのは，外からのHCG投与がかえって胎盤の機能低下を起こしたものと考えられる．

*

2. Extrathyroidal ^{131}I Distribution
（第2報）

立野育郎　加藤外栄
（国立金沢病院　特殊放射線科）

甲状腺機能亢進症の患者に^{131}Iの治療量を投与すると，肝に放射能のみとめられる症例群がある．これらの集積群のレジンスポンジアップテークは平均51.7%，基礎代謝率は平均46.4%で，いずれも非集積群よりも高く，甲状腺アップテークには両群に有意の差を認めがたく，血清総コレステロールは平均128.5mg/*dl*で非集積群よりも低い．赤沈，血清タンパク，A/G比，GOT，GPTなどの値は両群ともほぼ正常であるが，アルカリフォスファターゼ値は集積群においてやや高くて平均13.0単位を示している．肝集積のピークは^{131}I投与3～5日後に認められ，明瞭な肝シンチグラムをうることができ，有効半減期は約5日であり，胆汁内に放射能を認める．

甲状腺癌で，手術後，^{131}Iシンチグラムで頸部転移が認められた1例では，^{131}Iの大量投与で肺に著明な^{131}Iの集積を認め，両肺の明瞭なシンチグラムをえた．これは，同例の^{131}I-MAAによるスキャニングのパターンと一致し，しかも正常像である．この症例は約2年の経過観察をしているが，胸部X線像ならびに臨床所見等からは転移の徴候が認められず，しかも^{131}Iの肺集積を示した．肺集積のピークは^{131}I投与2日後に認められ，有効半減期は5日であった．

質問：平松　博（金沢大学放射線科）われわれのところでも，甲状腺癌，肺転移の患者で転移巣は肺野ではほとんどX線学的には証明されないにかかわらず，肺野に均等な濃い打点を認めたものを経験している．X線学的に認められない微小病巣が撒布しているためか，肺胞がヨード代謝を代償しているのか不明であった．本例について精査追求をお願いしたい．

答：立野育郎　本例ではX線学的にまったく病巣が認められず，しかも全肺野に均等に^{131}Iの分布をみとめるので，果たして転移であるのか，ヨード代謝の代償なのか不明であるが，できうるかぎりfollowしたいと考えている．

質問：久田欣一（金沢大学中央放射線部）①肺が描画された症例の肺のバイオプシーを期待している．

②肺の描画される理由をどう考えられるか．

答：立野育郎　①できればそうしたいと考えている．

②血中の甲状腺ホルモンの濃度が高いと，肝に蓄積するものと推定している．

*

3. トリオソルブテスト値と^{131}I摂取率の統計的観察

横山　弘　古本節夫
正谷　健　宮越和子
（富山県立中央病院）

自験例男子38，女子190例のT_3-test値と^{131}I uptakeの相関係数を算出し，その相関を検討した．男子38例の相関係数r（以下rとする）は0.41と推計学的にやや相関ありといえた．女子190例のrは0.26．T_3-test値（以下

Presented by Medical*Online